

子どもの生活の安全を守るためにできることは何か

小華和芽依 藤田彩花 松田彩音

指導教員: 岡部真二教諭

要旨

日常生活の中で子どもが危うく事故に遭いそうになって、冷や冷やさせられる場面を見かけることは多々ある。そんなとき私たちは、事故にならなかった安心感や保護者は何をしていたのだろうとその時に考える程度で、実際に何かすることは少ない。そこで私たちは子どもの事故について調査を行った。そして、事故の原因が保護者の不注意であったとしても、その背景には負担の大きさがあるのではないかと推察し、そこにアプローチするプランを考えた。このプランは子育てだけでなく、高齢者やハンディキャップを抱える人々にも応用できるのではないかと考えている。

What should we do to protect children?

Kohanawa Mei Fujita Ayaka Matsuda Ayane

Supervisor: Okabe Shinji

Abstract

In daily life, we often witness children's almost caught in traffic accidents. When we see that situation, though we feel relief of not encountering the accident or think what parents are doing, we seldom do what is for children actually. Then, we focused on the accidents whose casualties are children and considered that parents' faults as causes of children's accidents doesn't necessarily mean only parents' faults, but the magnitude of parents' burdens. After that, we have devised the plan to solve parents' burdens. We think that this plan can apply to also elderly people and handicapped people.

1. 動機

私たちは危険な場面に遭遇している子供をよく見かけることがある。文献調査やフィールドワークを行ったところ、駐車場内での事故の数が減っていなかったり、3歳から13歳までに子供の30人に1人が事故にあった経験があったりすることが分かった。また、駐車場以外でも交通事故に遭う子供が増えているということが分かった。そこで、その時、保護者は何をしているのだろうかと考え、少しでも事故の数を減らしたいと思った。また、保護者以外の周りの協力も必要だと思い、どのような方向から協力ができるのかを調査したいと考えた。

仮説

私たちは「施設」と「保護者の態度」という 2 つの面から子供の安全を守れないだろうかと考えた。まず、施設の面ではユニバーサルデザインを利用して子供でも使いやすく、危なくないような施設を作れば良いのではないかと考えた。また、保護者の安全に対する配慮という面では、保護者以外の周りの人が協力して保護者を支え、保護者の負担を少しでも減らし、そうすることで保護者が子供に目がいくので、子供を危険から守れるのではないかと考えた。

2. 調査

・調査方法

a) インターネットでの文献調査

子供の事故の現状や要因、ユニバーサルデザインについての文献を調べた。

b) インタビュー

① 2019 年 5 月 20 日に行った浅草でのフィールドワークにおいて、外国人観光客から各国のユニバーサルデザインについての意見を収集した。

②12 月につくばセンター周辺でフィールドワークを行い、駐車場等における保護者の意識について調査をした。

・調査結果

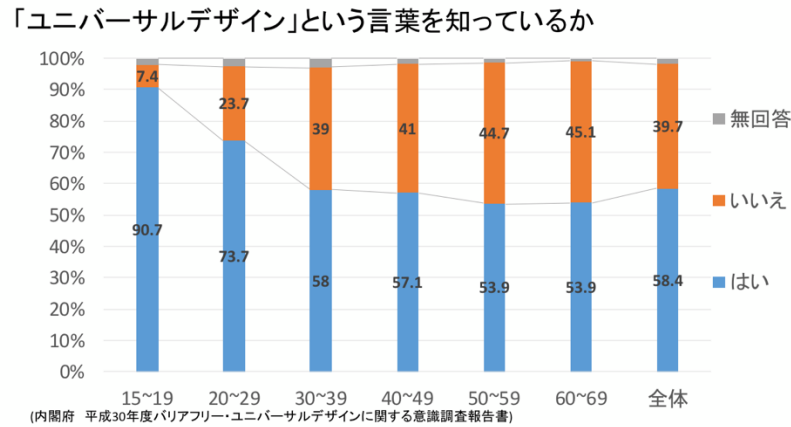
○ユニバーサルデザインについて

a) 文献調査

近年高齢化やグローバル化が進展している日本において、あらゆる人々が社会の様々な活動に参加、参画すると共に、社会の担い手としての役割を果たすことが出来る社会というのが目指すべき姿として求められている。このような状況の中、全ての人が安全で快適な生活を送れるよう、ハード・ソフト両面を含めたユニバーサルデザインの推進が注目されている。

日本におけるユニバーサルデザインの認知度を調査したところ、全世代を合わせると約 6 割の日本人が知っているということが分かった。また、近年の教育の効果からか年代が下がるほど認知度が上がるという傾向も見えて取れ、日本での認知度は現状比較的高いと言える(図 1)。

図 1：内閣府 平成 30 年度バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査より



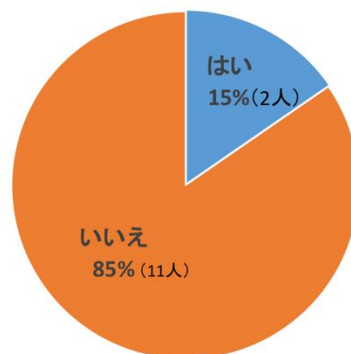
b) インタビュー

①浅草フィールドワーク

日本と海外とのユニバーサルデザインの浸透度の違いを比較する為、浅草に来ていた外国人観光客にユニバーサルデザインを知っているかどうかについて聞き取り調査を行った。調査の結果、ユニバーサルデザインについて知っている人は13人中凡そ15%にあたる2人であり、日本と比べて海外での認知度は低いという結果が出た（図 2）。しかし聞き取りを続けたところ、ほとんどの外国人がユニバーサルデザインという名前は知らないが、その概念や考え方については理解しており、自国でも導入が進められていると答えた。以上より、海外よりも認知度が高い日本ではより導入を進めやすいのではと考察し、今後様々な公共施設等でユニバーサルデザインの活用を促進していきたいと考えた。

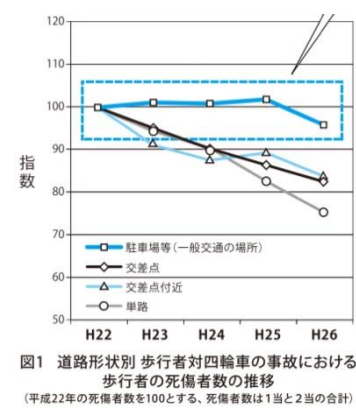
図 2：浅草フィールドワークの結果

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っているか



- ・ 駐車場における歩行者の意識

①駐車場における危険の調査



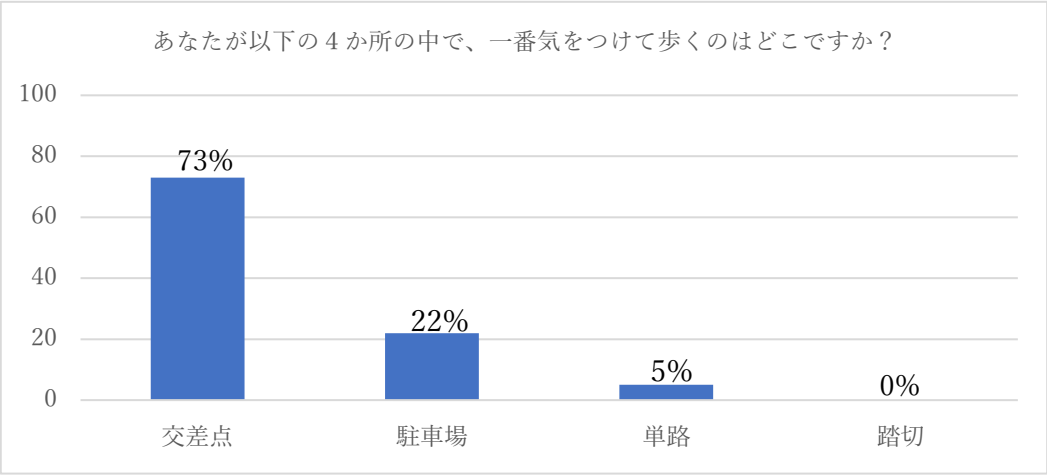
動機でも述べたように、平成 22 年から 26 年にかけて歩行者対四輪車の事故における歩行者の死傷者数は交差点、交差点付近、単路においては減少傾向にある一方で、駐車場はあまり変化が見られない。そこでなぜ駐車場における事故のみが減少していないのかを人々の駐車場に対する意識の観点から調査を行う。人々の意識から調査を行うのは、6 歳以下の子どもの駐車場内における事故の原因の約半分は保護者の不注意であるという調査結果があるからだ。(出典：交通事故総合分析センター)

図 3(出典：交通事故総合分析センター)

②フィールドワークによる調査

危険の意識調査 つくばセンター周辺で男女 19 名にアンケート調査を行った。調査結果は以下の通り。

図 4 あなたが以下の 4 か所の中で、一番気をつけて歩くのはどこですか？



駐車場は交差点と比較すると意識されにくいということが言える一方で、事故数が減少している単路や踏切(踏切に関しては、つくばセンター周辺には踏切がないことが考えられる)よりは注意されていることが分かった。

図 5 駐車場で子どもに関して危険な経験をしたことはありますか？

はい	8 (48%)
いいえ	11 (52%)

今回の調査では「いいえ」と答えた人の方が多かったものの、約半数は経験したことがあると回答した。「はい」と答えた人の多くは、飛び出しをあげた。

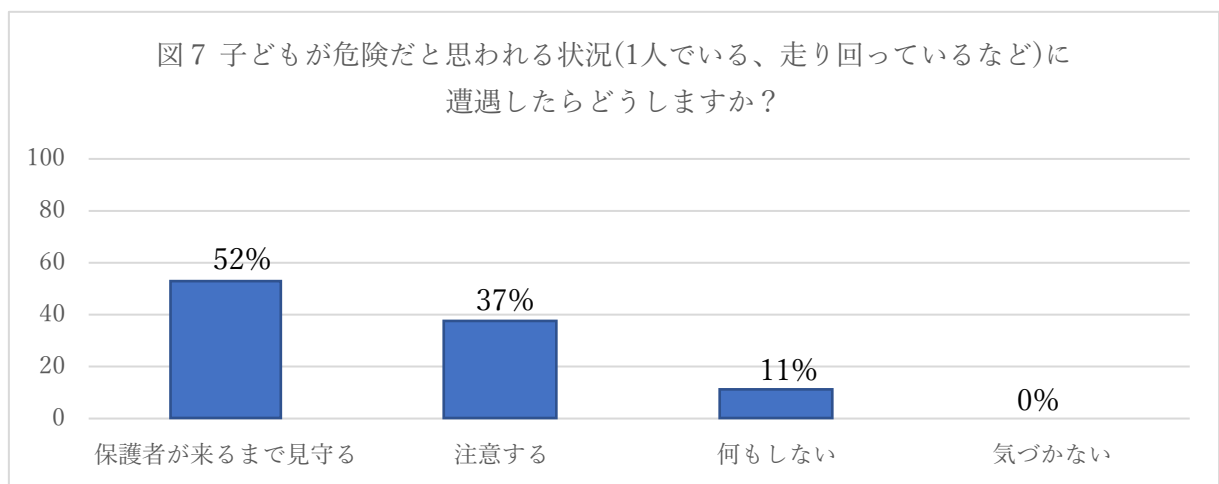
図6 外出時、子どもが複数人いることで目を離してしまった経験をしたことがありますか？

はい	8 (100%)
いいえ	0 (0%)

※図6は子どもがいる人を対象に行ったアンケート結果

図4より駐車場に対する意識が特別低いわけではないが、駐車場における子どもの事故の原因の約半数が保護者の不注意(①より)だというのは、②-3,4から分かるように保護者は注意しているものの、子どもが複数いることで目を離してしまうということが影響していると考えられる。

図7 子どもが危険だと思われる状況(1人でのいる、走り回っているなど)に遭遇したらどうしますか？



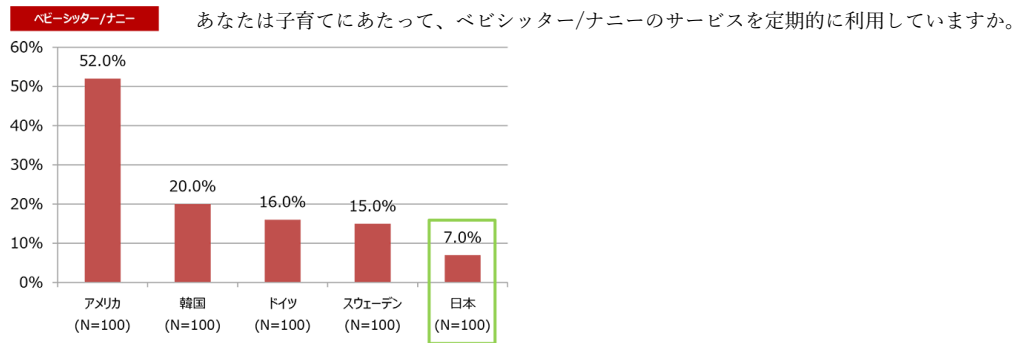
約半数の人が「保護者が来るまで見守る」と答えた。調査前は、子どもがいる人といない人との間で差が出るのではないかと予測していたが、違いはあまり見られなかった。実際、「何もしない」と答えた人は子どもがいない人ではあったが、子どもがいなくても、見守ると答えた人が大多数であった。子育て世代ではない人々の子どもに対する意識が特別低いということは見られなかった。

これらの結果より、駐車場における子どもの事故の原因の約半分が保護者の不注意であるというのは単に保護者の意識が低いというわけではなく、保護者の負担の大きさも考えられる。そこで私たちは、人々の危険意識に訴えかけるのではなく、保護者の負担を軽減させることが駐車場を含めた子どもが被害に遭う事故を減らし、子どもの日常生活における安全を高めることができるのではないかと考えた。

以上のことより、海外で行われている福祉制度や、子育てに関するサポートシステムについて文献調査を行った。

3. 海外における福祉制度、システム

海外における子育てに関するシステムの特徴の一つにはシッター制度が挙げられる。実際、日本と諸外国においてその利用率はかなり異なる。(以下、Rinnai 株式会社 HP より)



アメリカでは約半数が定期的のベビーシッターやナニーを定期的にご利用している。また、スウェーデンではアメリカよりも利用率は低いものの、自治体が保育園の席を用意することの義務化や1歳未満の子どもの育児休業中には給与の80%を支給があり待機児童がほとんどいない。一方、日本はベビーシッターの利用率は7%に留まり、待機児童の問題も残っている。

フランスでは「保育ママ」と呼ばれる県から認められたベビーシッターで、子供を自宅で預かるというシステムがある。また、韓国では「子供ヘルパー」と呼ばれ、子どもの食事、衛生に関するケアを行うヘルパーサービスがある。フランスでは、保育所の定員が0歳から2歳の全人口の約16%しかないことも考えられるが、待機児童の改善にも繋がっていて、ベビーシッターの考えが日本と比較して普及していると考えられる。日本においてもそういった制度がないわけではない。実際、保育ママ制度を取り入れている自治体も存在する。しかし、まだ認知率は低く、ベビーシッターや保育ママに預けたいという声はまだまだ少ない。

●お子さんが3歳になるまではどこで過ごしましたか (いますか) ? (複数選択)

1位 自宅	65.7%
2位 認可保育園	29.9%
3位 祖父母・親戚宅	6.5%
4位 認証保育園	4.7%
4位 こども園	4.7%
6位 無認可保育園	3.5%
7位 保育ママ	1.8%
8位 ベビーシッター	0.0%
妊娠中・出産前	5.3%
その他 (病院・プリスクールなど)	5.3%

●費用負担が同じ (または無償) だったらどこが良いですか？

1位 認可保育園	51.6%
2位 安心できる場所ならどこでも良い	24.2%
3位 こども園	15.5%
4位 近ければどこでも良い	2.9%
5位 ベビーシッター	1.5%
6位 無認可保育園	1.2%
6位 認証保育園	1.2%
8位 保育ママ	0.6%

(株式会社 ブライト・ウェイ)

ベビーシッターや保育ママを実際に利用した人が非常に少ないことから、利用したいという割合が2%に満たないのは、保護者がベビーシッターなどの制度自体を好んでいないというよりかは、まだそれらの整備が整っていない、認知度が低いことの方が要因ではないかと考えられる。

そこで、子どもが被害に遭う事故の現状を改善するためにつきっきりのヘルパーや預かりを行う保育ママの制度を行うことは、認知度、普及率がともに低い日本では困難だと考え、それらよりも気軽に、身近で利用できる簡易的なシッターサービスを考えるのが良いと考えた。

3. プラン

これまでの調査結果より、保護者の負担軽減のためのヘルパーシステムを考えた。

「子育てサポート店員」

概要：大型ショッピングモールやスーパーマーケットを利用する子連れの保護者があらかじめ店舗に連絡を取ることで、子育てサポート店員が待機し、到着した時点から帰りまで一緒に店舗を回る。

図解



メリット

- ・子どもを見守る目が増えることで、事故に遭う前に気づく可能性が増える。
 - ・複数の子どもを連れて回らないといけない保護者の負担を減らすことができる。
 - ・子育てサポート専門の店員ということで、子育ての相談が気軽にできる。
- 潜在保育士や、子育てを終えた主婦などが多いと相談しやすいのではないかな。
- ・施設以外の子育てサポートの考えの普及につながる。

課題点

- ・調査結果からも分かるように、日本では施設以外での子育てサポートの考えがあまり普及していないため、受け入れられづらい可能性がある。
- ・保護者が安心してサポート店員を利用できるように店員の信頼度を何らかの形で示す必要がある。
- ・一定の決まった業務ではないため、賃金制度の確立が難しい。

賃金制度については、店舗の周辺環境、世代別の人口の割合、子育て世代が多く訪れる時間帯にもよって対応させていくことが望ましいと考えられる。そこで、ここでは一つのプランを挙げたいと思う。

日本におけるベビーシッターのアルバイトの平均時給は 999 円(求人ボックス)であり、スーパーマーケットのアルバイトの平均時給は約 935 円(タウンワークより)である。また、中央最低賃金審議会(厚生労働相の諮問機関)の小委員会は、2019 年度の全国の最低賃金の目安を時給 901 円とした(日本経済新聞)ことを考慮すると、地域差はあると思うが、950 円～1000 円ほどにするのが妥当ではないかと考える。

ここまで、保護者の負担の軽減や子育てサポートの観点から考えてきたが、私たちが考えたプランは高齢者やハンディキャップを抱えている人などの、買い物に困難を感じる人にも応用できるのではないかと考えている。

4. 結論

ここまで子どもの生活の安全を守るために何かできないかと考えてきて、特に駐車場に着目してきた。調べていく過程で、事故の原因は保護者の不注意といっても意識の低さを表すわけではないことが分かった。そこから、子どもの安全を少しでも守るためにできることは、ヘルパーシステムの導入など保護者の負担を軽減させるようなサポートをすることだと考える。

5. 謝辞

本稿の作成にあたり土浦一高の探究学習委員会担当の先生方、海外研修の際の各大学の方々と筑波大学教授堤様、アンケート調査に快く答えてくださった方々をはじめ、協力していただいた多くの皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

6. 参考文献

交通事故総合分析センター 2016 年 駐車場における歩行者対四輪車の事故
2019 年 7 月 6 日 <https://www.itarda.or.jp/contents/152/info115.pdf>

Bright Way アンケート調査 子どもの預け先について 2020 年 2 月 23 日
<https://brightway.jp/enq/enq1707.htm>

タウンワーク スーパーのアルバイト・パートの平均時給 2020 年 2 月 23 日
https://townwork.net/jobCategory/jc_002/jmc_00221/jikyuu/

求人ボックス 給料ナビ ベビーシッターの仕事の年収・時給・給料情報
2020 年 2 月 23 日 <https://求人ボックス.com/ベビーシッターの年収・時給>

日本経済新聞 最低賃金、東京・神奈川 1000 円超え 全国平均 901 円に 2020 年 2 月 23 日
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO47999990R30C19A7MM0000/>

調査情報担当室「フランスにおける子育て支援」2020 年 2 月 23 日
https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai_prism/backnumber/h26pdf/201413102.pdf#search=%E3%83%95%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B9%E4%BF%9D%E8%82%B2%E3%83%9E%E3%83%9E

一般財団法人 自治体国際化協会 「自治体国際化フォーラム 『各国の子育て支援に関する取り組み』」 2020 年 1 月 10 日 <https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/report/other/pdf/7896.pdf#search='海外+子供+制度'>

島田市子育て応援サイト しまいく ショッピングカートでの子どもの事故 転倒時の頭部損傷のリスク
2020 年 2 月 20 日 <http://www.shimaiku.jp/ショッピングカートでの子どもの事故-転落時の頭/>

内閣府 バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進 2020 年 1 月 19 日
<https://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/bf-index.html>

リンナイ株式会社【熱と暮らし通信】世界 5 カ国の「ワーキングママの育児事情」に関する意識調査
2020 年 2 月 23 日 <https://www.rinnai.co.jp/releases/2019/0212/>

NIKKEI STYLE WOMAN START キャリア 待機児童はほぼゼロ、スウェーデンの保育園の秘密
2020 年 3 月 6 日 https://style.nikkei.com/article/DGXNASFK0601M_W3A101C1000000/